

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

水稻や果樹では、病害虫の越冬量を低下させ、来春以降の発生抑制につなげましょう。

## 特に発生に注意

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

## クビアカツヤカミキリ

- ・次年度以降の羽化・成虫の分散を防ぐため、被害が大きい樹は伐採し、伐採した枝や幹は、ほ場に放置せず処分しましょう。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆いましょう。
- ・伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぎましょう。

## たまねぎ

## べと病

- ・苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
- ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布しましょう。

## トマト

## すすかび病

- ・日照不足で樹勢が落ちると発生しやすく、近年増加傾向にあります。
- ・葉かび病より、かびが黒く見えるが、見分けることは困難なため、葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑いましょう。
- ・発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布しましょう。

## キャベツ

## 菌核病

- ・温暖、多雨により発生が助長されます。
- ・菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。
- ・発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラール水和剤などを予防的に散布しましょう。

たまねぎべと病\*  
(苗における発病状況)トマトすすかび病被害葉※  
表(左) 裏(右)

キャベツ菌核病被害

次回の情報は12月下旬にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

## 水稲

今年発生した病害虫を次作に持ち越さないように防除しましょう！

## スクミリングガイ（ジャンボタニシ）



成貝

## 特徴

- ◆主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
- ◆年々発生地域が拡大している。

## 防除のポイント

- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリングガイ)から稲を守りましょう！」をご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

## 縞葉枯病・ヒメトビウンカ

縞葉枯病  
(ひこばえでの病徴)

## 特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
- ◆発病したひこばえをヒメトビウンカが吸汁して、保毒する。

## 防除のポイント

- ◆ウイルスに感染したひこばえは、本病の伝染源となる恐れがあるので、早めに刈り株をすきこみ、ひこばえを処分する。

## 果樹

## バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

## クビアカツヤカミキリ



成虫

幼虫



うどん状フラス



中華麺状フラス

## 防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

## 伐採後の切株について



## 処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

## 野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。  
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和2年5月13日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/bouj\\_voj\\_youhou/R0205kubi\\_aka.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/bouj_voj_youhou/R0205kubi_aka.pdf)

- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia\\_bungii/Aromia\\_bungii\(HB104\).pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii(HB104).pdf)

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農業を使用する際は、登録内容を確認してください。

## 果樹

## 温州みかん

## ミカンハダニ



ミカンハダニによる葉の被害※

## 特徴

- ◆果実や葉に寄生し、吸汁する。吸われた部分は、色が抜けて白くなる。
- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多発する。
- ◆冬期は低温のため、増殖は抑えられるが、生息はしている。春になり暖かくなると、増殖を開始する。

## 防除のポイント

- ◆収穫後の園では、越冬期に、**機械油乳剤95**、**ハーベストオイル**、**スプレーオイル**等を散布する。
- ◆樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油乳剤で葉害が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油乳剤（**ハーベストオイル**等）を散布する方がよい。

## カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシ※

## 特徴

- ◆葉や枝、果実に寄生し、多発した場合は、樹勢が落ち、果実の商品価値を低下させる。
- ◆ナシマルカイガラムシは以前はサンホーゼカイガラムシと呼ばれていた。

## 防除のポイント

- ◆収穫後の園では、越冬期に、**機械油乳剤95**、**ハーベストオイル**、**スプレーオイル**等を散布する。
- ◆樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油乳剤で葉害が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油乳剤（**ハーベストオイル**等）を散布する方がよい。



フジコナカイガラムシ※

## 果樹

## 温州みかん

## 貯蔵病害



緑かび病

## 特徴

- ◆青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。
- ◆青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

## 防除のポイント

- ◆収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。
- ◆収穫前に**トップジンM水和剤**(軸腐病、青かび病、緑かび病)や**ペフラン液剤25**(青かび病、緑かび病)などを散布する。
- ◆果実が濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる(予措)ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。

## 野菜

## なす

## 褐紋病



褐紋病 (苗における発病状況) ※

## 特徴

- ◆施設栽培での育苗期の蒸し込みによる高温多湿で発生しやすい。
- ◆幼苗期に地際が侵されると立ち枯れを起こす。

## 防除のポイント

- ◆褐紋病は種子伝染するので、発病した株からは採種せず、健全な種子を使用する。
- ◆発生を認めたら、**ベンレート水和剤**、**スクレアフロアブル**を散布する。

## トマト・ミニトマト(施設栽培)

## すすかび病

すすかび病被害葉※  
表(左) 裏(右)※

## 特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**トリフミン水和剤**、**ファンタジスタ顆粒水和剤**などを散布する。

## 野菜

## きゅうり(施設抑制裁培)

## ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

## 特徴

- ◆発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆露地では越冬できないが、施設では下草などで越冬できる。
- ◆ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病などのウイルスを媒介する。

## 防除のポイント

- ◆施設内の残渣を処分し、施設内外の除草を徹底する。
- ◆栽培終了後は、除草後に施設を2週間以上閉めきり、本虫を死滅させる。

## あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

## 菌核病

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること



キャベツでの発病

## 特徴

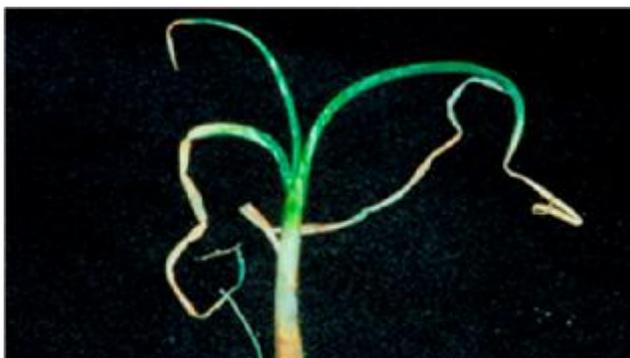
- ◆温暖、多雨により発生が助長される。

## 防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作に防除効果がある。
- ◆キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラル水和剤などを予防的に散布する。

## たまねぎ

## べと病



べと病（苗における発病状況）\*

## 特徴

- ◆苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。

## 防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)